

	<p>日本プライマリ・ケア連合学会 四国ブロック支部</p> 	<p>発行人：阿波谷, 大原, 板東, 川本, 澤田 事務局 〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1 綾川町国民健康保険陶病院気付 副支部長/事務局長 大原昌樹・土肥宛 Tel. 087-876-1185 Fax. 087-876-3795 E-mail oharamasaki@gmail.com</p>
---	--	---

★1 2021年度研修修了式を開催しました

高知家総合診療専門研修プログラム 事務局 福留恵子 (高知大学医学部家庭医療学講座)

2022年3月6日(日)に2021年度高知家総合診療専門研修プログラムの研修修了式を開催しました。当初は対面開催を予定していましたが、残念ながら新型コロナウイルス感染症の流行により叶わず、オンライン開始といたしました。

今回は2018年に研修を開始した3名の専攻医が4年間の研修を無事に修了し、晴れて修了生となりました。

上田光里先生は研修期間中に第1子の妊娠・出産をご経験され、出産後も子育てと研修を両立する専攻医として、県立あき総合病院・高知医療センター・野市中央病院でお世話になりました。ご自身にとっての大きなライフイベントがいくつも重なり、苦しい時期もあったこととお話しされながら、多くの方に感謝を述べられている姿が印象的でした。研修をスタートした最初の頃とは、まさに「見違える (by 野市中央病院公文龍也院長)」ほど大きく成長された姿を参加者一同眩しく感じました。

田邊義貴先生は、ほとんどの研修を高知医療センターでお世話になり、総合診療専門研修Iでは佐川町立国民健康保険高北病院で研修をされました。田邊先生は何事にもあまり動じずに、各研修で着々と経験を積み重ねている印象があったのですが、振り返りの発表においてご自身の経験された看取りの事例を取り上げており、総合診療医としてぐっと深みを増したなあと感じました。いい看取りができた事例を取り上げながら、その一方でなかなか患者さんの望みをかなえられない場面も経験され、今後への課題や一層の学びの必要性を語られる姿に頼もしさを感じました。

東山祐士先生は、自治医科大学卒業生としての義務年限を果たしながらの研修でした。総合診療専門研修Iを梶原病院で2年間行い、県立幡多けんみん病院・高知医療センターでお世話になりました。東山先生は最初に研修した県立幡多けんみん病院に最終学年で戻られた際に、多職種からの評価高くも、リーダーシップを発揮して若い先生と共に学び、指導する姿に素晴らしい成長があったと指導医の川村昌史先生からのフィードバックもありました。先生自身からも今後は指導医としても頑張りたいという抱負も聞かれました。来年度からは



へき地診療所の所長として地域で総合診療を展開していってくれることを大いに期待しています。

記念講演として、滋賀家庭医療学センター雨森正記先生に講師をお願いいたしました。これまでの日本における家庭医療・総合診療の歩みとともに、高知大学家庭医療学講座の設立や自治医科大学でのユニークな出来事も含め楽しくお話しいただきました。地域で総合診療医を育てること、また地域と共にある総合診療医についてお聞きし、指導医も修了生も新たな一歩を踏み出していくことに元気を頂いた時間となりました。ありがとうございました。

来年度は新たに1名の専攻医を迎えます。高知家プログラムもより充実した研修を提供できるように心機一転頑張ります。皆様も機会があれば、ぜひ総合診療セミナー等にご参加ください。お待ちしております。

★2 PC教育の一環として日本PC連合学会の山岡傳一郎先生、宮川眞一先生による学生向けの講義
愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 (愛媛) 川本 龍一
「地域医療における心のケア コロナ感染と漢方」 (2021年12月24日)

愛媛県立中央病院 漢方内科主任部長 山岡 傳一郎先生

山岡先生は、学生時代から東洋医学を学び、現在は後継者育成に努める傍ら生薬や鍼の効果についても研究活動をされています。今回は理由があって、学生さんに質問しながら授業をはじめたようです。同僚が研修医の頃一緒に診断したという視神経脊髄炎の患者さんがいるそうで、今もその方に、柿蒂湯(柿の蒂、生姜、丁子)を使ってケアしているとのこと。そのお孫さんが愛媛大学の医学生だと知ったそうで、どうしたら彼女を見つけられるかを考えながら授業をしたそうです。患者さんの家は道後の白鷺堂というお団子屋さんだそうで、良くなって来た時、わざわざ私の診察室で坊ちゃん団子をひねって作ってくれたそうです。そのお孫さんだったら、おそらく「道後温泉は、誰が、または何(答えは、白鷺)が見つけたのでしょうか?」と聞けば手を上げると思いついたそうです。そして、見事に、手を挙げた女の子を見つけると、患者さんの娘さんにそっくりだったそうです。とても心温まる授業の一コマです。



「バングラデシュでの医療活動」(2022年1月20日)

医療法人鶯友会牧病院 宮川 眞一先生

先生は、子供の頃の岩村 昇先生との出会いやパキスタンでの中村医師との出会いが先生の現在の活動につながっています徳島大学医学部に入学、学生時代にバングラデシュに赴き体験したお話。医学部卒業後は、福岡徳洲会病院で研修、その後 JOCS 日本キリスト教海外医療協会に参加しバングラデシュでの医療活動に従事されました。ダッカ人質テロ事件やロヒンギヤ難民問題などについて貧困や格差、人種差別などが背景にあることを教えていただきました。社会的企業(無担保で企業するソーシャルビジネス、マイクロクレジット)や社会的貢献(Table for Two)についても現地の前向きな取り組みを紹介されました。MDGs(ミレニアム開発目標)からSDGs(持続可能な開発目標)へと世界が目標とする社会の在り方などについても詳しく説明いただきました。



★3 徳島県地域包括ケアシステム学会、そして秋の四国ブロック支部会

美波病院 本田 壮一

高齢者が増加し、「要介護の状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい人生を最後まで続けられるように、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される街づくり（地域包括ケア）」の理解や実践は、プライマリ・ケア医において重要である。その討論の場として、2017年に「徳島県地域包括ケアシステム学会（ToCCS）」が創立され¹⁾、毎年8月下旬の日曜に学術集会被開催されている。徳島県のPC学会会員も多く参加し、私も理事の一人として参画している。そのToCCSのあゆみと最近の活動を紹介する。

表：徳島県地域包括ケアシステム学会のあゆみ

回	年	大会長（敬称略）	テーマ
1	2017	永廣 信治	目指せ！ All Tokushima
2	2018	稲次 正敬	地域を守る人を、守る
3	2019	加藤 真介	包括ケアを支える個の力
—	2020	(COVID-19パンデミックで延期。冊子を刊行)	
4	2021	鎌村 好孝	命を守り、つなぐ、包括ケア

8月の学術集会的あゆみを示す（表）。第3回までは徳島大学の蔵本キャンパスで開催された。2020年8月の学会は延期され、代わりに特別冊子²⁾が刊行され、2021年はオンラインで開催された。

次に、私どもの一般演題を示す。1) 津波災害を考えた地域包括ケア（P(ポスター)-17、2017）、2) 地域包括ケアで「認知症の津波」に対峙する（P-15、2018）、3) 徳島市での第58回 全国国保地域医療学会を振り返って（P-16、2019）、4) 感染症に罹患した入院高齢者を地域包括ケアで診る（特別冊子、2021年3月）、5) だがどこで、コビッド・ワクチン接種を？2021年の集団接種を振り返る（P-14、2021）。連続して、美波町を中心とした徳島県南部での地域包括ケアの問題点や実践活動を発表してきた。

さらに、2022年2月19日（土）に開催された市民講座を紹介する。徳島市の会場とZOOM配信のハイブリッド方式で開催された。基調講演は、岡山大学の狩野光伸先生。外務大臣の次席学術技術顧問も務めておられ、「古きをたずねて新しきを拓く：医療の2側面」と題して話された（図1）。次に、「地域包括ケアの多様性～徳島の女性活躍から～」というパネル・ディスカッションが開催された。3演題で、1) 北村美渚さん（稲次病院）：「コロナ禍における通いの場の有用性」、2) 田中佳先生（徳島大学）：「ホスピタルアートとその輪の広がり」、そして、小林洋子さん（美波町）：「美波町における移住支援」。いずれも、様々な社会活動から、「地域包括ケア」の一翼を担う高齢者を健康に保つ仕組みを紹介され、有益な情報を得ることができた。



図1 左より本田、狩野、西野 瑞徳の両先生
(徳島市、2月19日)

結びに、2022年11月の四国PC学会の大会長を拝命することになった(図2)。故郷の美波町の病院に勤務し、もう18年目に入る。遷延する人手不足に苦しむ中山間地でのプライマリ・ケアでは、有機的な連携と教育が重要と感じる。準備委員の諸先生とともに、programなどの議論を行っており、多くのPC学会会員に参加をお願いする。

【参考】

1) 徳島県地域包括ケアシステム学会 (ToCCS) ⇒ <https://www.toccs.jp/>

2) 本田: 徳島県地域包括ケアシステム学会 特別冊子, p16-17, 2021

第22回 日本プライマリ・ケア連合学会
四国ブロック支部地方会
第29回 四国地域医学研究会 合同学術集会



徳島大学 藤井記念ホール・オンライン
2022年11月19日(土)、20日(日)

テーマ: 「四国で学び、日本の未来に
寄りそうプライマリ・ケア」

大会長: 本田 壮一(美波病院)

副大会長: 藤原 真治、河南 真吾

事務局長: 大倉 佳宏

● 四国の最東端、蒲生田岬灯台

図2: 2022年11月に開催される学会案内

